

総務常任委員会での議論から

「真に必要とされる 施策・サービス」

「予算編成方針」の中で「真に必要とされる施策を計画的に実施」「真に必要とされる行政サービスの財源」といわれています。当然のことですが、行政施策は、真に必要な施策やサービスのために行なわれるべきです。

問題は、真に必要とされる施策、サービスの内容、どのような施策を位置付けているかです。総括質疑でもこの点にふれましたが、橋爪議員は文教経済常任委員会でも部長に、この点を質していました。「予算編成方針を受けて、各部でどう具体化したか」「どんな基準を設けたか」ということですが、各部長の答弁からすると、そのような意識はなかったようです。こうした経過を受けて、私は財務部長に



次の様に聞きました。

予算編成の中心になる部門として、予算編成方針に述べられている「真に必要とされる施策」ということをどう具体化し、各部門に指示したか。

財政部門としては、「真に必要とされる施策」で編成した結果が、この予算ということでしょう。しかし、わざわざ「真に…」と強調したのですから特別の意味があると思うのが自然です。結果は、お題目にかかげただけというように思いました。

解同補助金 ようやく減額に

部落解放同盟に対する補助金が、300万円から280万円へと20万円ですが、ようやく減額になりました。次の様に述べました。

長い間減額を求めてきましたが、ようやく減額になりました。しかし、他団体と比較するとまだ多い。市は行革の中で諸団体への補助金を削減してきましたが、その際、「自立してほしい」といつてきました。私は解同こそ早急に自立してほしいと思いませんし、他団体よりもその力があると思いません。更なる削減をすべきです。

「運営費への補助ではない」という主旨の答弁がありましたので、更に次の様に述べました。

解同への補助金は、事業に対する補助ではなく、運営費そのものに対する補助金です。事業に対する補助なら考えられなくもありません。

上越ブランド

「上越ブランド」ということがいわれています。

ナショナルⅡ松下電機産業が、パナソニックになりました。これと対比して考えてみたいと思います。

パナソニックがブランドでテレビやビデオ、冷蔵庫はブランドではありません。「上越ブランド」ということで「雪」といわれました。私は、製造会社出身ですが、その立場から見ると、

「雪」はテレビやビデオにあたるもので、ブランドそのものではないと思うのです。ブランドとブランド名をもつ製品は、区別して考えるべきだと思います。

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の

市政レポート

2008年3月23日 No.178
発行・杉本敏宏 事務所
上越市東本町5丁目1番38号
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832

一般質問等にどう取り組んできたか 12年間に47回の一般質問をしました

19日は一般質問の二日目、私は午後一番に登壇しました。



議員生活最後の質問です。12年間に48回の定例議会があり、47回の一般質問をし、取り上げた問題は、100を超えました。市民のみなさんに支えられ、職員の皆さんの協力もあり、多くの住民要求を実現することができました。その点では、恵まれた、そして充実した12年間だったと思います。

ノー原稿での質問にチャレンジ

数年前から、総括質疑でも一般質問でも、「原稿」をつくって読み上げることをやめました。議会事務局の白石次長の次の一言がきっかけでした。

杉本さん、再質問はノー原稿でしょう。委員会では最初から原稿なしでしょう。それならノー原稿でできるんじゃないですか。

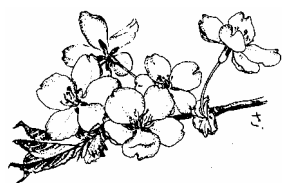
「それもそうだ」と思い、チャレンジしてみました。やればできるものです。それでも最初の1〜2回は、一応原稿らしきものをつくって持っていきま

リハールでシナリオ練り上げ

通告を出しますと、課長らが「質問取り（質問の主旨を聞いて、答弁の準備をすること）にやってきました。私はここですべてをオープンにして、質問のリハールをします。最初の質問だけでなく、「再質問でこんなことを聞くよ」「こんなことを考えているんだけど、質問のどこかと言うからね」「こういうのは調べておいた方がいいよ」など、みんな話すわけです。職員の受け答えや顔をうかがっている、この過程で、どんな答弁になるかおおよその見当がつくようになります。それで再質問を調整して、シナ

それが次には概要になり、資料とデータをメモしたものに変わり、最近では「通告書」だけになりました。ただ、通告書では文字が小さいので、14pに拡大したものです。

原稿を書かないと「楽」かというところ、決してそうではありません。かえって面倒です。早い時期から、取り上げる課題を決め、シナリオをつくり、データを集め、頭の中を整理しておかなければならないからです。おかげで、ボケなくてすみませ



リオが練りあがるわけです。

こうして本番を迎えるわけですが、それまでの間、シナリオを忘れないようにしなければなりません。上越市議会では、委員会審議のあとで一般質問（多くの議会では、一般質問が先で、委員会があと）が行われます。委員会の議論によっては、シナリオを変更しなければならぬ場合も出てきます。ですから委員会審議にも眼を配っていなければなりません。

リハールをやっているためか、本会議での質問は、おおむねシナリオ通りに進みます。今日の一般質問は、若干のく

どうしたら要求が実現するか

私の場合、質問の課題については、議会のかなり前からいろんな所で、「こういう質問を、こういう形でやるよ」ということをしゃべっています。別に隠しておくことでもありませんし、ましてや「不意打ち質問」をして、職員等を「答弁不能」の立ち往生をさせても、要求は実現しませんから。それよりも、しゃべることによって、「こうしてみたら」とか「こういう角度からの方がいいのでは」とか「違うんじゃないですか」とか、いろんなアドバイスがあったりして、たいへん助かるわけです。